414
A4743
3

記

大陽拂沛門石下之歌指百五十石之天七汲立石有下之
門石金石天七汲立石有下之歌指百五十石之天七汲立石有下之
盛名金石天七汲立石有下之歌指百五十石之天七汲立石有下之
陶し石有蓋打指陶し此蓋石或指或百五十石之天七汲立石有下之

金七指五円三指吉沛吉沛吉庵

金五指五円三指吉沛吉沛吉庵

金五指五円三指吉沛吉沛吉庵

金三指五円三指吉沛吉沛吉庵

金三指五円三指吉沛吉沛吉庵

金三指五円三指吉沛吉沛吉庵

金三指五円三指吉沛吉沛吉庵

出桁六分許

金弐拾九円弐拾八銭

壱分許ニ付
金四円八拾九銭

金壱円ト六銭 七升四斗 四才

金壱円 石工手間

金三拾弐銭 手伝人足

金壱円八拾弐銭

金四拾四銭

金弐拾八銭

土堤営繕弐拾弐間半下

金弐円四拾七銭五厘

土堤営繕弐拾弐間半下

但壱間ニ付
金拾壱銭

右之通御座候以上

栗原源蔵

明治十三年
十月十七日

大蔵省用度課
御掛御中

石灰ト水并山林ト左之通
出来候ニ付書付

概算ニテ

一 金四拾四円拾弐銭七厘

内訳

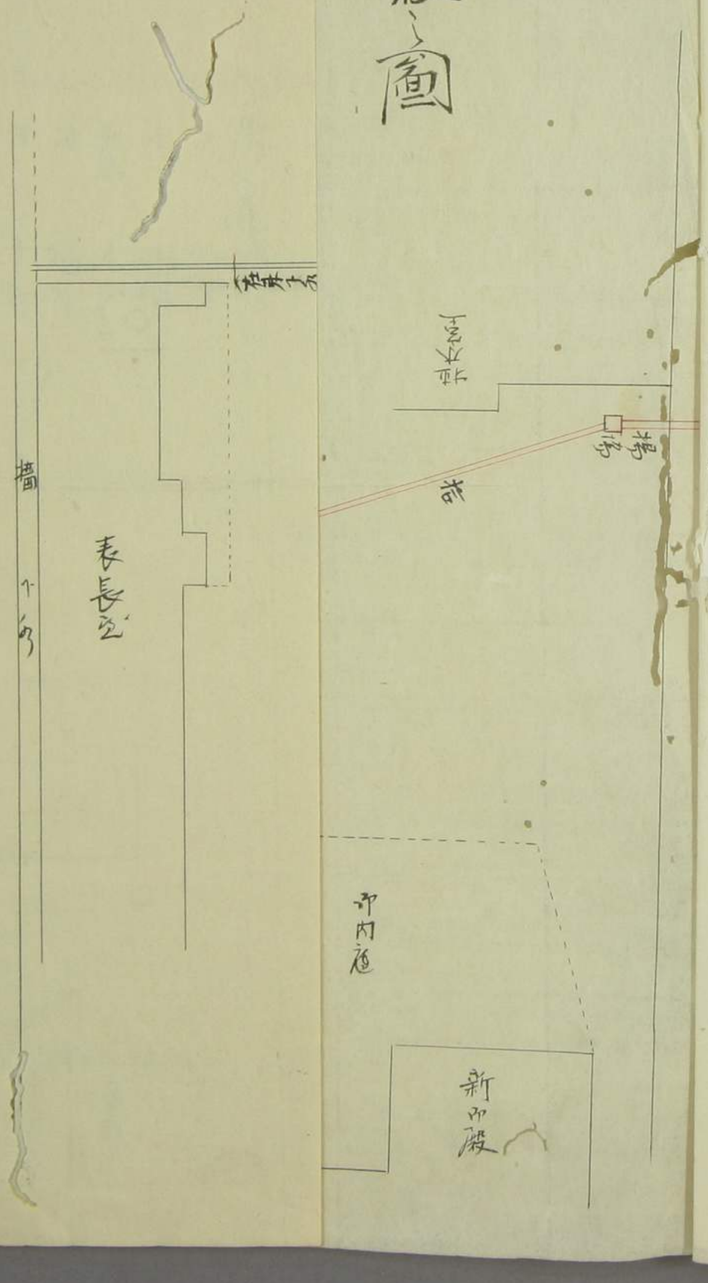
金四拾四円四拾七銭

金三円二拾七銭

石灰ト水

郡山

水戸殿之圖



千水乃殿之圖

井戸新規掘

井戸

坂塀

往来

表長屋

塀

物置所

米搗所

雪隠

治室

女中部屋

御次

御内儀

新御殿

雪隠

流し

雪隠

渡り廊下

渡り廊下

六間五尺

三間

十三間

十六間二尺

図面

約定書

一金 八拾四円 若壱ヶ月 君寺外構角柵張修繕仕入費
前記之金高を以て請負致候処実正也
国面仕様書之通人夫出来ニ而仕上候上ハ
今後之通急く約定之仕方ニ
一来ル廿六日より着手ニ而
来ル卯月中ニ仕上事
一雨天除ク外十五日限ニ
出来致候ハヽ
乙

翌日まで差遣し納金いたし候ても一日ごと
に銭百文ずつ金額を毎日上納
すべき事
但本人より納金に
上納すべき事

一 仕様書および図面を添り粗造或は不注意の
儀これ有候ハヽ何度にても指戻し造
直しの事 尤手戻りより生ずる損失ハ
一切自弁 勿論に候事

一 雇入候節ハ兼而仕様書
および図面へ掛ケ孤ざし仕様に候下
掛ケ指引之上 新ニおゐても補足仕まつり
候節ハ別紙仕様書之
通細書の上申出べき事

指引の上ハ決而不仕方候事

一 請負中本人逃亡或ハ
従而人引更等出来可仕候節ハ本人
相当ニ代人差出し候ハヽ免許 尤
違約ニ付申出候節ハ未成他へ此
お納金ニ而代人差出候儀ハ出来ざる
金額ニ下ケ渡し候事

但分画り八ツ掛ケ
一 皆出来納之日限まて仕事掛ケ
しニ而納之日限まて仕事出来ニ而
ニ而之時ニ請負ニ而も
申上置候ニ付ニ而

前條之通り出金仕候ニ付而ハ
一借用金之儀ハ連帯五分通之時ハ
八分通ニ而ハ重役ニ而ハ物品ニ而
八分通り引受出金
皆出来出金之儀ハ出掛りニおゐ而
引受ケ可申事
但出来形ニ而
出兌極メ可申事

若シ條々確ト
保証人ニおゐても
落後ニ而連印
物品仕法ニ依テ本人ヘ
決而違約仕間敷
物品書差上申証

明治三年九月十日　保証人　京橋區新富町七十目三番地　赤神富治郎

借用人　京橋區本八丁堀六町目四番地　山添喜三郎

保証人　京橋區柳町　五番地　栗本陳蔵

大藏省國庫課

勞錢掛御中

約定書

一金　圓　　君ヨリ　　借受申候
前記之金額ヲ無利息ニテ
国画仕様書之通
今般之通堅ク約定仕候
一来ル　日より着手ニ　　ニ降キ
　多数連皆出来ニ仕着事
一皆納ニ至候ニ付テハ

翌日より落成之日迄沸込締金ニ而一日分
請負金高ニ分一之金額を毎日上納
可仕事
但右人共納金ニ差支候時ハ保証人より速ニ
上納可仕候事
一 仕様書并図面ニ拠り粗造或ハ不堅固之
箇所有之候時ハ何ケ度ニ而も御指図之通
取直し可申尤手書ニより生する損失ハ
一切自弁ハ勿論ニ御座候事
一 廉増又ハ模様替等之節ハ前願ニ而仕様書
并図面へ掛ケ紙を以仕様御取極し上ニ而下
御掛り御検印之上私ニおゐても調印仕候且
右費金之増減明細書ニ而早速差出候旨其為

御検印ニ而御下ケ以前着手候ハ不仕候ハ勿論
入費金御下ケ不相願候事
一 請負中右人逃亡其他故障出来し候節ハ
保証人引受請出来可仕候保証人ニ而右故障
相生し御免相願候節ハ未払其他此
迄出来之分付御勘所へ持込有之物ハ其代
上納致し候代金之儀ハ出来形ハ歩通之
金額御下ケ渡し可被下候事
但分通りハ御掛りニおゐて御見極メ可被下候事
一 請出来物之日限迄ニ而も仕事掛らず候ハ
し而納定日限まで二請出来之節ハ御見込次第
右之時ハ請負御免被仰付候とも異議
申上間敷候且其節ニ而御所分総而

前條之通り出來仕候ハヽ
一請戻證書引渡之儀ハ
八分通ニ而も出來之時
八分通り引渡し殘金
皆濟之上引渡し
可申候事
但出來形分通り
出來極メ候ハヽ
右之條々確と約定仕候上ハ本人ハ勿論
保証人ニおゐても違約不仕候ニ
付後證連印如
件

明治十三年十一月廿六日

請負人　東檜原區
　　柳町　五番地
　　栗原傳藏

保証人　東檜原區
　　柳町壹丁目拾四番地
　　栗原榮吉

保証人　東檜原區
　　柳町　壹番地
　　井関岩吉

大藏省國庫課

營繕掛出中

右之通リ正ニ収納仕候也

明治十三年十月十日

大蔵省用度課

営繕掛

陸中

青森富治郎

陣立蔵米倉庫接待事務

記

佛郵內

左米土藏米倉庫掃除等ノ爲メ本部郵便
振替預金ノ内ヨリ金貳百圓ヲ本月十日
限リ借入ヲ請ヒ度此段及通知候也
但シ本月中ニ於テ返納ノ上ハ利子ヲ要セス
尚ホ本部ニ於テ金子入用ノ節ハ何時ニテモ
返納ノ義ニ付異議無之候事

佛入費

合計 金貳百圓也

佛郵內

〃	金	弐拾四円
〃	金	拾弐円弐銭
〃	金	金拾弐円
〃	金	三円弐銭
〃	金	四円
〃	金	五円弐銭
〃	金	三円拾銭
〃	金	壱円弐銭

一ノ条代
我木代
大工賃
木材
鋼線代金領収ノ事

運送賃ノ者金
川砂壱俵壱俵
瓦完埋俵代
左官手間賃

市通勝手組合

明治十二年十月廿日

大蔵省用度課

当縮減ノ儀ニ付伺

赤神兵庫

金庫内現存株券概算

一 金六拾六圓八拾錢 内譯

金拾貳圓五拾錢 株券印紙代

金貳拾四圓 株券書換手方及手數費用

金貳圓 株券名義書換料

金六拾六圓八拾錢

内譯

金拾貳円五拾錢

金貳拾四円

金拾貳円

金三四五拾弐

金三四八拾弐

金壱四五拾弐

金四

金五四壱拾弐

大小釘壱式

外壱箱ニ

九本入壱式

大戸引壱ヶ所

河岡三ヶ川釘共ニ

壱人ニ付壱ヶ

一金五円五拾銭　　四挺立力板　拾三枚
　　　　　　　　　枚弐百拾割　尺前

一金七百[redacted]　　大引束代
　　　　　　　　　拾五本
　　　　　　　　　拾ノ弐百四十本

一金拾弐円五拾銭

　　　　　　　迴リ七二間　此坪九平坪三三

三坪

壱坪二付金五拾弐拾弐銭
此金弐円　川
　　　　　　　　　金七百付
　　　　　　　　　八分替

弐拾弐円

記

一床張五間米倉庫之間内板張替並新規
張替大引桁等壱間二付東間口五間
床内下張共二間半壱間二付根太差等
四挺壱本宛取付ケ用之新規取付損
損新規取付右打付太戸等並所銅細共
新親取付候ニ付

沸入費

金九拾弐円五拾銭
　　　　　　　　新規材木代

〆金拾弐円五拾銭
　　　　　　　　元雑挺加ゑ米代

〆金四拾円

〆金拾弐円
　　　　　　　　大工手間
　　　　　　　　壱人五分

明治十二年十月

大蔵省用度課
掛中

陸路内倉庫為ニ物置新拵ニ等来候加穀積書

記

倉庫茅葺物置所裏手之足笠木損折廻シ拾七間九ヶ所

修繕入費

〆合計　金五拾四円五拾九銭三厘

内

金四拾八円　九銭三厘

板塀折廻シ拾七間

内壱間引六間壱尺

但シ壱坪ニ付

金弐円八拾弐銭九厘

中沢様ヘ

山

金六円五拾銭

右通り

明治三年 十月晦日

大蔵省用度課

当縞織り

沸中

来廿日

木戸門亭前

毎度松戸駅揃

大工宮七吉

軍需品ヲ物品税ニ
指定同品ノ販売
ニ関スル費用概算

一 金五拾四圓五拾九銭三厘

内

金四拾八円九弐三厘 [illegible]

金六円五拾弐銭 [illegible]

諸納所申告
南棚矣来
芳来請求
水之内
九拾

記

一 金六円八拾銭　右者本庁ニ於テ上八丁堀村中桝屋へ御支払例

一 金弐円五拾銭　赤坂弐分局ゟ

一 金壱円五拾銭　新聞之運賃

一 笘米拾銭七厘　外ニ切手四百六十枚　四ヶ所　二ヶ所　四拾五枚

一 金拾九円八拾銭　梭米代　大工　壱番組　二番組

一 木戸門壱ヶ所棧其外手間　右修繕本所大工方

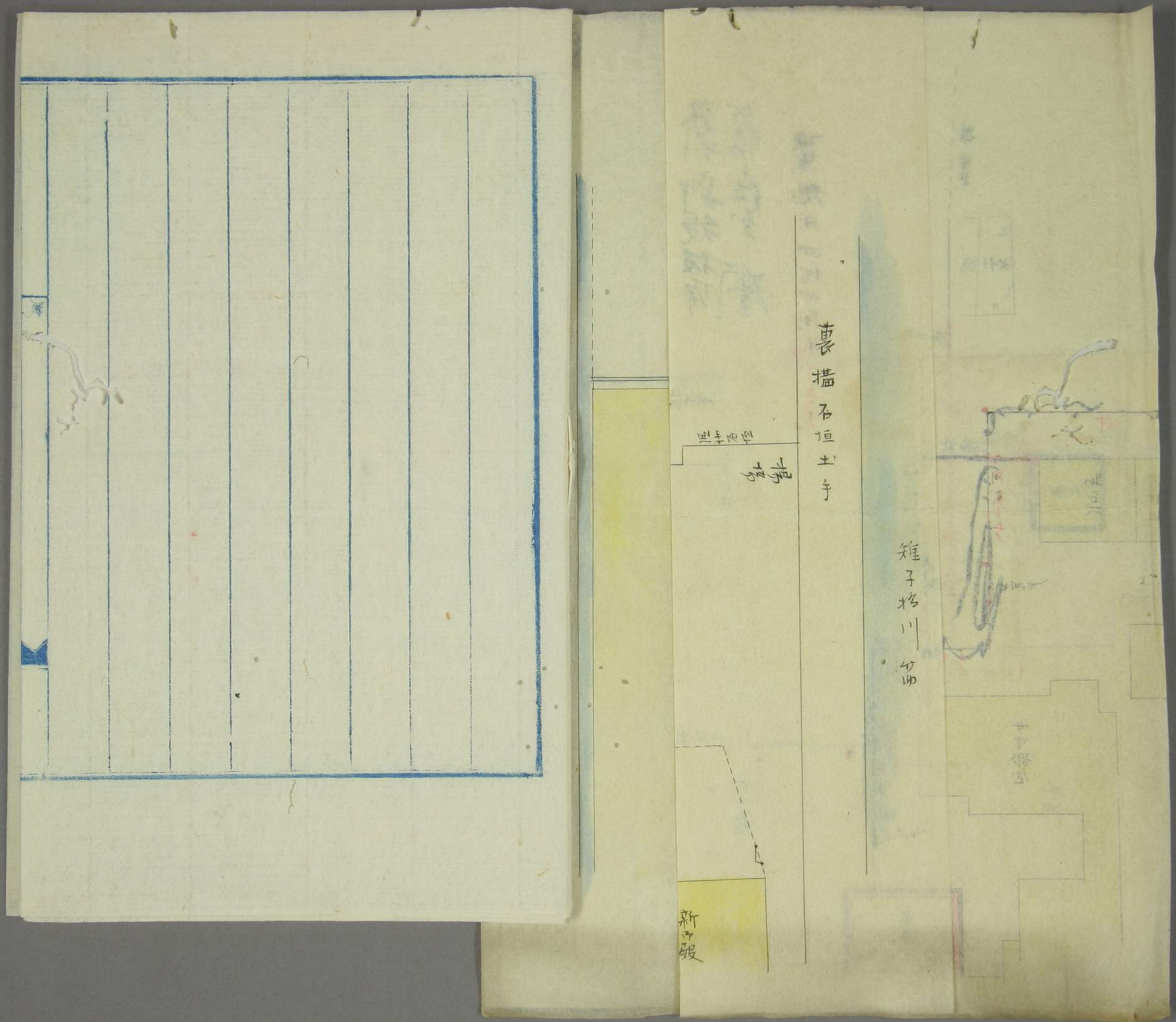
一 金六円五拾銭

十二月廿四日　出張所

明治十三年十二月十日

赤坂出張所

大蔵省国債課
常備金
御中

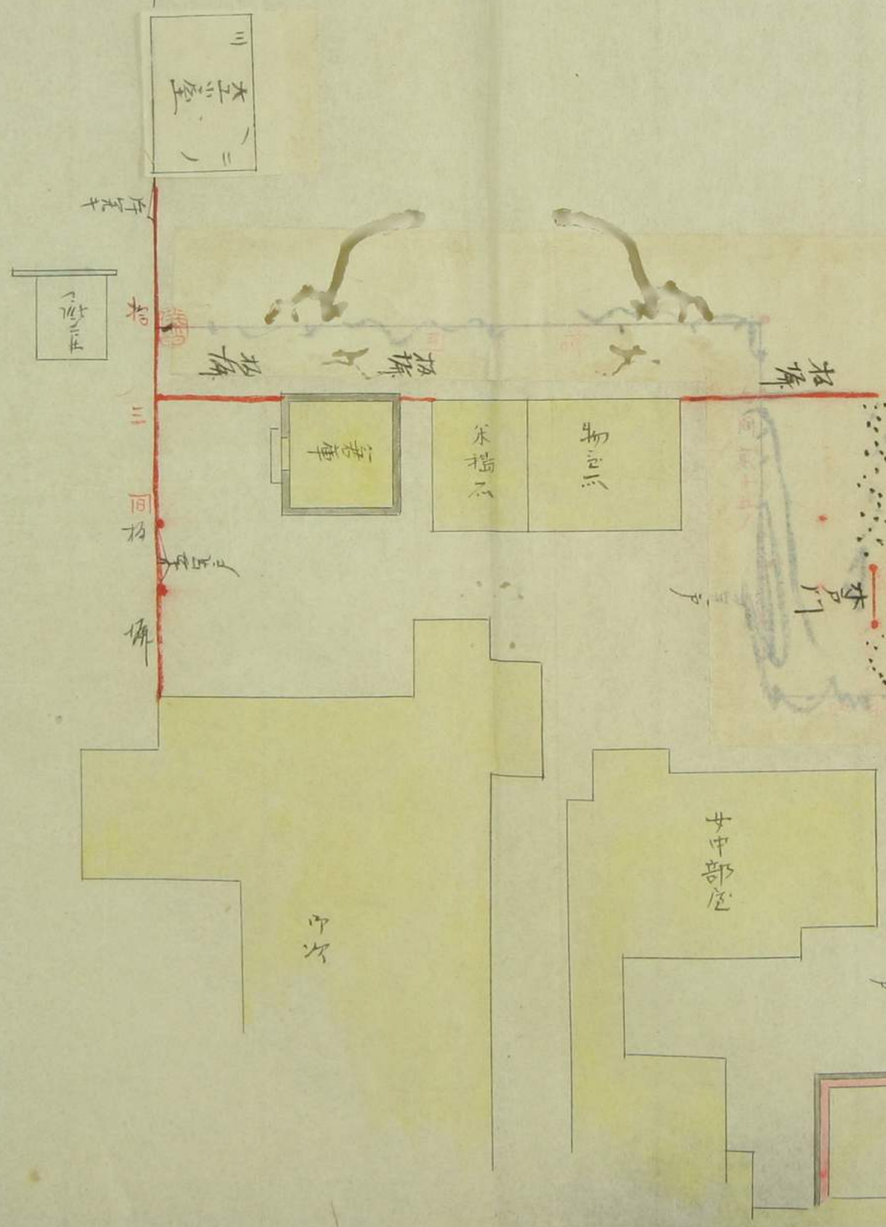

裏描石垣土手
雉子牧川
新堰

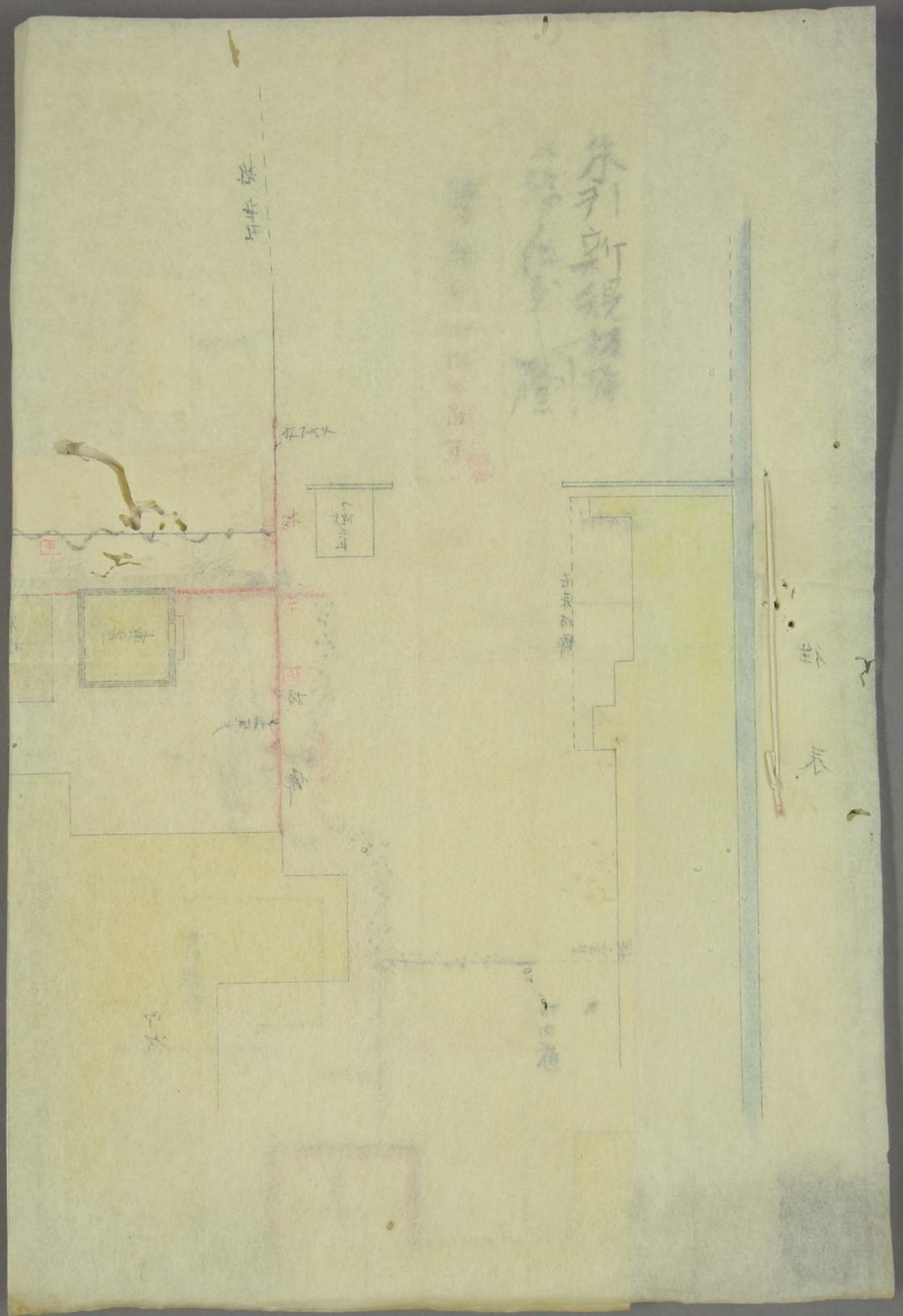
朱子新規板傍
孔路位置之圖

板傍總間四指四間貳

裏描不同ル手

雑子物川筋


板傍
板傍
板傍
板傍
宝庫
朱揚ル
中部屋
内内箱
新ル殿
宝庫



約定書

一金百圓也

君事今般
前記之金子を以
國面仕事を通
今後之通
一来ル廿五日より着手
事
一皆出来
皆物事
一

賄賂十五日

翌日まで猶予を願い出て速納無之候て一日ごと
猶予金として百分の一ずつ金額を毎日上納
すべき事
但本人より納金の節は保証人より速
に上納すべき事

一 仕様書および絵図面を添り粗造或は不法の品等
作り出し候時は何度にても指出を通
取直すべし尤手戻より生ずる損耗は
一切自弁負担たるべき事

一 普請又は修繕の節は都て仕様書
および絵図面へ掛ケ硬く仕様致すべし万
一掛出掛印之上私に変更致候時は
変更之箇所を取除き仕直すべき事

一 請負人引更等出来候節は其時の保証人
従前人引更可仕候但保証人も亦普請
相済し出免相願候節は未だ他へ此
通筋之付込たる物は其儘
お納免若代人金之儀は出来形八歩通之
金額出下げ渡し
但分通りは掛印おゐて見極めの事

一 普請出来物定日限まで仕事掛の
しくし納定日限まて普請出来之時見法
之時より猶予日数之内出免被仰付候とも裏判
申上置候に於ては猶予日数之内出

前條之通り仕候事

一請取金之儀ハ建築五分通ニ而壱割
八分通ニ而壱割
八分通ニ而壱割
皆済ニ而残金壱割
ニ而渡し

但出来形分ニ而通り之儀ハ出掛ニ而
出来形ニ而渡し

若し條々確と相守り申間敷候ハヽ保証人ニ於而も速ニ仕直し可仕候事

後日之為連印証書仍而如件

明治十二年十一月廿四日

京橋區
新富町七十三番地
請負人
赤神富治郎

京橋區
柳町五番地
保証人
栗原源藏

京橋區
本八町壱弐町目四番地
保証人

大藏省國庫課

營繕掛出中

記

一大隈橋南詰町橋石垣
不等昇四尺五寸幅
長拾壱間也石工
庫通御一ツ

金四両

以上

金弐両ニ而売渡シ申候所実正

金弐両ニ而売渡シ申候所実正

右之通り相違無御座候以上

嘉永十三年
十月廿日

大蔵村
百姓 越沢本

記

[illegible]郎内三ヶ用屋敷借長家二タ
棟ヶ下見ニ候屋敷石ヶ門共相伴
百ヶ格ヒ坪壱畝弐歩ニ候壱軒

代金九両弐歩

内訳

八格八坪大長家一棟ヶ下見候屋
ヶ格八坪小長家一棟ヶ下見候屋
八坪 石ヶ門壱ヶ所

右之通

明治十三年十月廿七日　大蔵卿大隈重信

大蔵省

管轄物品取扱掛

御役御免仕度

雉子橋内長官貳棟
坪数費用取調ノ事

一金九圓九拾銭　壱坪ニ付金五銭五厘

惣坪数百八拾坪

内

五拾四坪　板塀ニ墨塗

四拾三坪　折廻シ貳間半ニ貳間ノ貳棟
表附卸シ三尺ノ廻縁四ヶ所ニ付ク

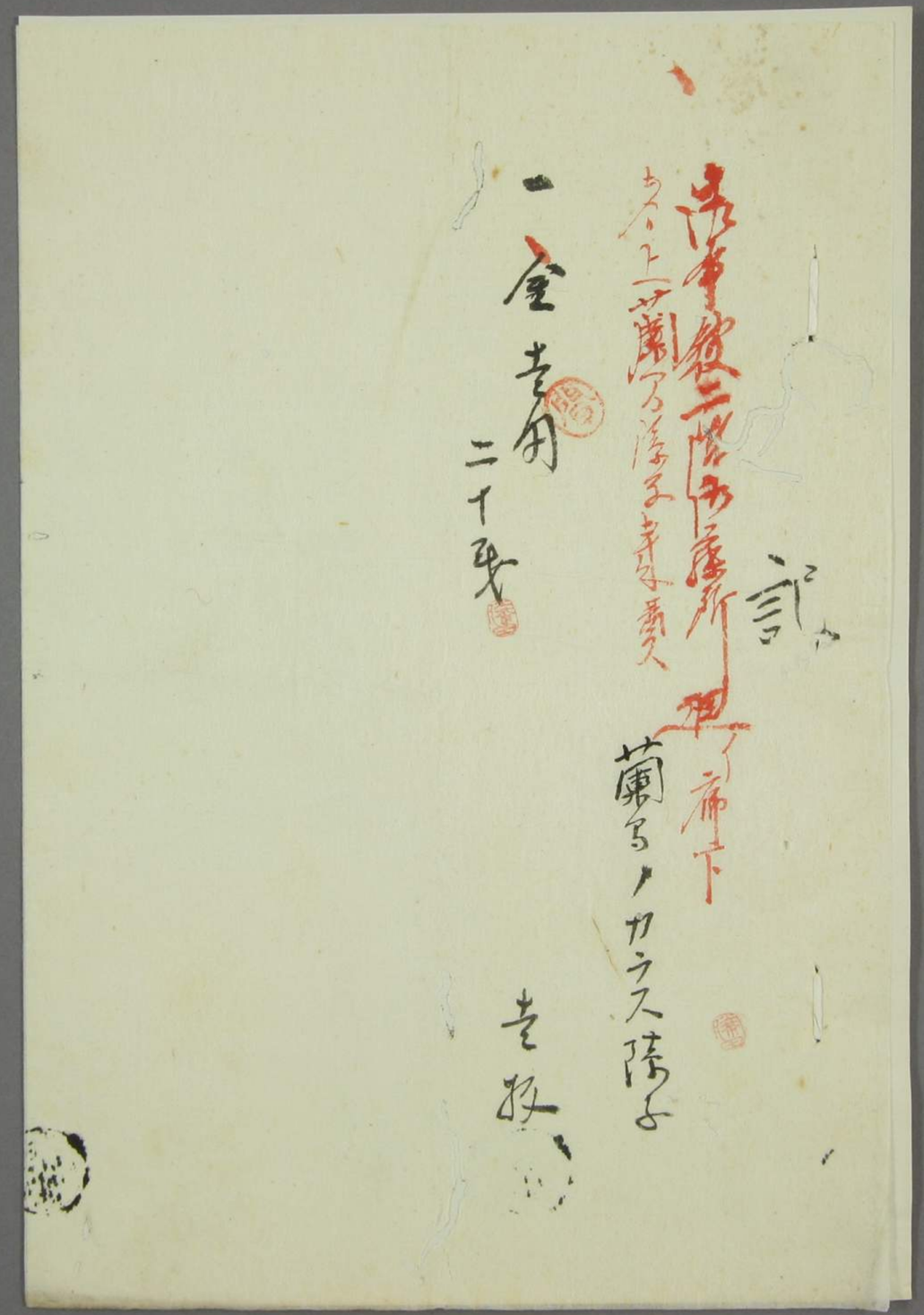
四拾三坪　同所囲板塀ニ付五ヶ所ノ潜戸ヲ付ク

四格七條

三格六條

一金壱圓也

二十五年



右之通相違
無之候

仲介者

沖波宿中條

田中
兼吉

大限将即内記

一金壱万円也

自一万円ニ付金弐銭ノ

一金壱万円也

自一万円ニ付金弐銭ノ

一金壱万円也

自一万円ニ付金弐銭ノ

十年金壱円借用証書之事

右之通り借用申処実正

十一月廿日

大蔵省

借主　秩父多市

大限移転

一金弐拾銭　上張賃長代

但一枚宛金弐銭ニ相当

一金弐拾銭　表装料金弐銭ニ相当

但一巻宛金弐銭ニ当

森屋善八

記

右之通り公債
証書
紛失候ニ付
御下渡相成度
此段奉願候也

十月廿日　堀内文吉郎

大蔵省

大隈侯爵邸

一金四圓也

一金二十八錢三厘也

一金十錢也

一金十四錢三厘也

一金三錢也

一金四圓二十五錢也

十三年

十一月

右之通相違候事実也

大藏省
管轄廳官

昭和十二年十一月十一日

大蔵省
用度課長殿

御役所

一　壱反七畝
一　弐人作屋敷
一　弐人中百姓

内長屋二戸ヲ下

一 中仕切壁 弐ヶ所

一 押入仕切 弐ヶ所

一 押入中段棚 弐ヶ所

一 腰高障子 弐本 但シ

上張紙共 弐枚

引手共 弐組

一 南面

北縁 弐ヶ所

土台 弐ヶ所

一代官屋敷 一戸

一 押入仕切 弐ヶ所

土台 弐ヶ所

一代官屋敷 一戸

一 押入中段棚 弐ヶ所

一 出天井
鬼唐木
代官指出義
二ヶ所

一 出障子 唐紙
一 幕共
一 当共

[illegal]

[illegal]

[illegal]

表示者宗教法人

表門長屋桁行拾壱間

一 所々弐拾間

梁間

所御玄関弐間

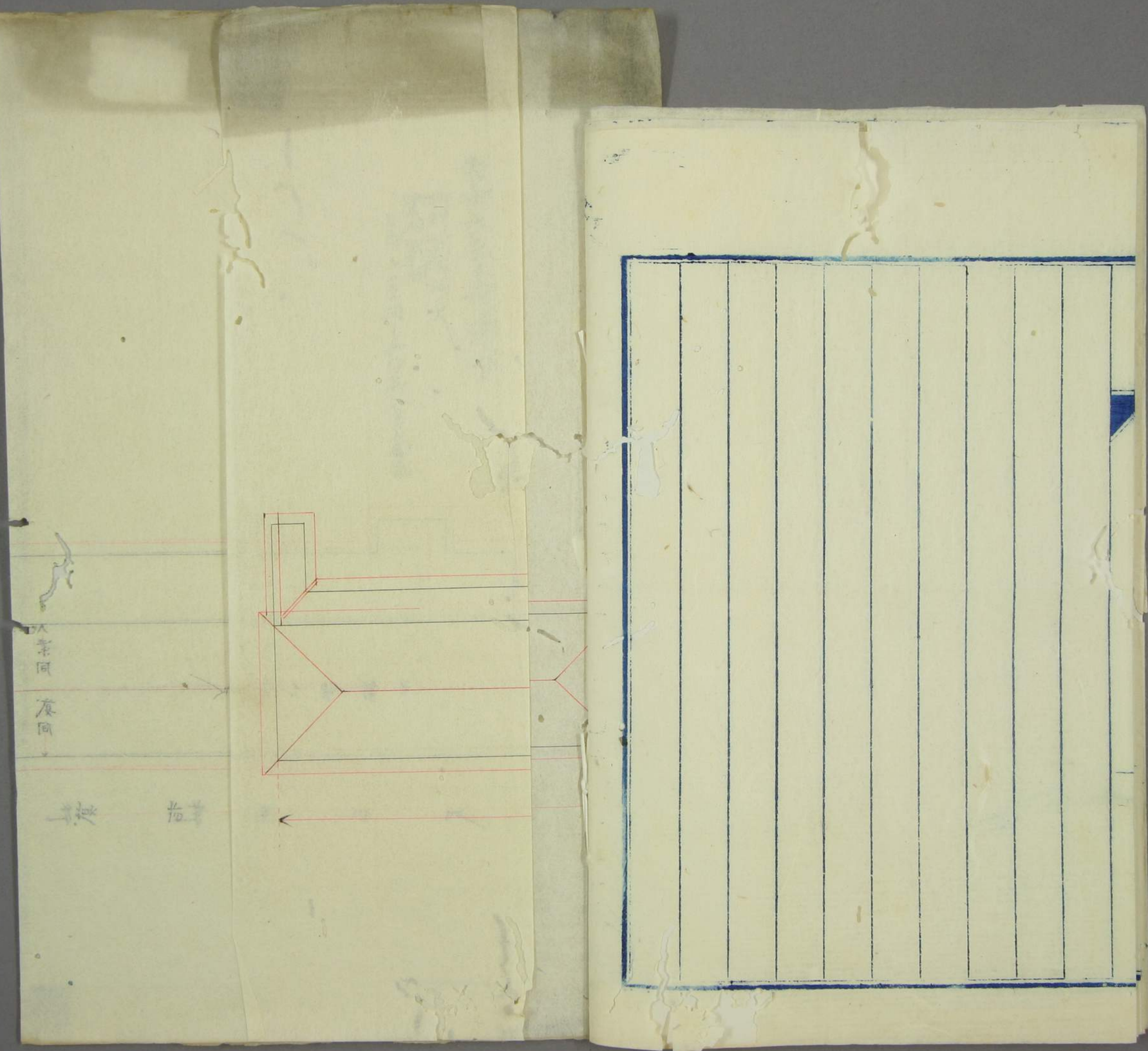
弐間

沙汰弐拾六坪半

右建家屋根瓦除迄一棟両下弐拾六坪

大棟土留廻り掛之箇所先土枚踏下ル三枚

葺方漆喰切ニて調合ニ而丹上塗廻


入来間
友間

表御長屋屋根藁葺

折行貳拾間弐
梁間貳間
外御と共同之御便所

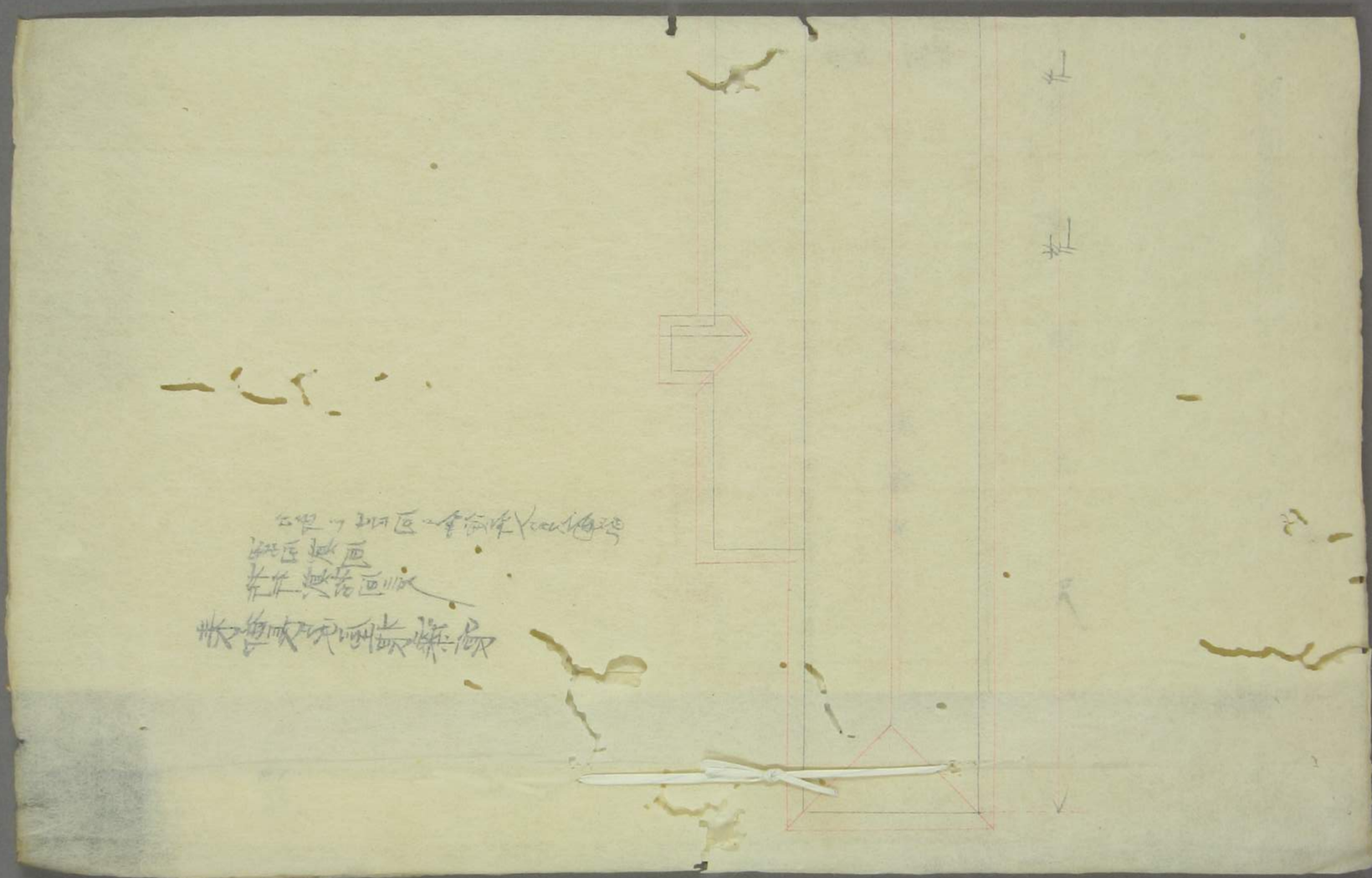
折行貳拾間

梁間貳間

重木瓦葺

三間

尺



約定書

一金壱万円也

右は今般貴殿より弊店へ注文の書籍代金として前記の金額を正に受取りました

因而依頼の通り今後左の通り約定致します

一来る十七日より着手一切天候不順の節は

多少遅延するも仕事

一時期を定めず納品する事

一納品の際は毎回代金を以て

1 SEN
1 SEN
1 SEN

前條之通り申込候ニ付而ハ
一 債務者ニ於テ弁済ヲ
八分通ニ至ル迄ハ
八分通リ弁済
時ハ
下候事

但シ未タ
申込候ハヽ

若シ條々ノ
保証人ニ
落後ノ
連印

年 月 日

債務者
神田區
小柳町 弐番地
酒類仲買業
神田 一郎

保証人
神田區
松下町 九番地
古川 三郎

保証人
神田區
雉子町 九番地
富山作次郎

大藏省國度課

營繕掛出中